
活動紹介



活動紹介

新型コロナウイルス感染対策について

感染管理認定看護師 下江 理沙

令和2年2月に、国内における新型コロナウイルス感染症患者が発生し、3月末から4月にかけて一気に患者数が多くなった。

このような状況下で、種子島医療センターでは2月から帰国者接触者外来の設置

●新型コロナウイルス感染対策整備

ダイヤモンドプリンセス号の感染対策を参考に《個人防護具の着脱》と《感染患者とのゾーニング》が大きなポイントになることを踏まえ、標準予防策＋飛沫・接触感染予防策を《皆でできる方法》として、現場スタッフの意見をもらいながら手順化することをまず取り組む。手順化した後は、デモンストレーションを通じた実践方法の獲得でした。帰国者接触者外来を立ち上げ、週1回の対策会議で助言をもらいながらここまでの実践ができた。

デモンストレーションの主な内容は以下の通り。

表以降にも、挿管時のデモンストレーションや再度個人防護具の着脱訓練等、新型コロナウイルス感染対策として必要なことは何かを常に考えながらであった。

デモンストレーションを通して、現場のスタッフから意見交換が活発にあり、そこからより実践しやすい手順書作成につながることができた。毎回スタッフに率先して参加してもらい、実際動いてみての改善案を直接話し合う意見交換も充実でき、多くのスタッフが抱く不安や怖さを少しでも前向きな姿勢で取り組む一体感へつなげられたのではと思う。

7月には、行政との合同で《感染患者や疑似症患者が重症化した際の搬送》訓練までを行った。今までの訓練から必要性を導き実践へつなげられた一例である。ここに至るまでを振り返ると、もしもに備え、院内の団結感を強く感じることができた。

●新型コロナウイルスへの正しい知識への理解について

国内で新型コロナウイルス患者が発生してから3月4月は、テレビやインターネットのニュースが多様な情報を提供されるようになり、新型コロナウイルス感染対策対応への混乱と恐怖をまねく情報も錯乱していた時期であった。漠然とした不安があったのも事実であり、実際スタッフからの不

新型コロナウイルス感染患者対応訓練

1	3月1日～31日	個人防護具着脱訓練（常勤医師、看護師対象）
2	3月18日	帰国者接触者外来からCT検査、病室へ入院する過程の患者移動訓練（車椅子移送）
3	3月26日	入院患者のCT検査へ移動
4	4月2日	帰国者接触者外来からCT検査、病室へ入院する過程の患者移動訓練（ストレッチャー移送）
5	4月15日	救急車から救急外来、病室への搬送
6	4月29日	遺体を納体袋へ包装方法について
7	5月2日	救急車から直接病室への搬送



新型コロナ対策勉強会

1	1月28.29.31日 2月14日	新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス対策について 演者：下江看護師（感染管理認定看護師）
2	4月13日	新型コロナ感染症 正しく恐れよう！ 知識こそ最大の防衛 演者：松本医師
3	4月14日	新型コロナウイルス感染症対策について（濃厚接触の基準、日常生活管理について） 演者：下江看護師（感染管理認定看護師）
4	4月20日	新型コロナ感染症 正しく恐れよう！ 知識こそ最大の防衛（2回目） 演者：松本医師
5	4月27日	第1回 新型コロナクイズ大会 演者：松本医師

安な声は、ニュースで目にするような一般の方が答えと同じような声も聞かれた。集団活動を制限としながらも、「正しく恐れよう」をスローガンに病院長はじめ医局長より積極的に勉強会を開催していただき、漠然とした不安への働きかけを行った。この時期だからこそ身に染みる言葉で、大切な学びを多くいただいた。

●検査体制

7月から唾液PCRを院内でできるようになった。唾液PCRは、島外搬送における検査や少しでも早く検査結果を出せるようになり、疑似症患者対応期間の短縮が図れるようになった。院内はもちろん、離島医療としても大きな貢献につながっている。

●外来対応

日々どんな方が来るかわからない現場である外来は、医事課・看護師が、問診とトリアージを実践しています。これが、とても大変で日々苦勞しているところである。手順を作成しても、その通りの対応でよいのか判断を迫られることが多い。

同じような対応ができないことが多いのが実情であり、日々現場が迷う判断について、少しでも柔軟にできるようにすることが今の課題である。

日々取り組む現場の苦勞は図りしれません。

●病棟対応

自施設は、感染症病床を有しており感染患者や疑似症患者を受け入れる病院である。感染患者対応チームをスタッフ同意制で作成した。島内での発生はないが、疑似症患者対応で約2週間チーム稼働をした。対応後は、不安が残るスタッフもおり今後どういう風に対応できればよいかという課題がある。同意制の限定的なスタッフ対応から全職員が交代で対応する形へと変更をしたのが今であるが、秋冬を無事乗り越えられていたらと願う。

5月に急性外傷の患者受け入れがあった際、呼吸器症状があるということで島外へ搬送ができない事例があった。PCR検査結果を待つまで急性期をどの病床でみるかを焦点に、島内や県内での流行がないことから該当する診療科の病床対応で個人防護具対応とした。対応後の振り返りは、万が一陽性であった場合のリスクを考える検査をする事例は、どの診療科であっても感染病床で受け入れることとした。

患者支援としては、通常と異なる個室隔離や面会禁止、職員の防護具対応に伴う精神的な負担軽減、孤独感を感じさせない家族との交流ができる方法等、その人らしく過ごせる環境の提供を目指した療養生活ができるように励んでいきたい。

●嬉しいエール

国内における新型コロナ対応が活発化した頃は、複数の企業からの応援物資と応援メッセージの提供をいただきました。このような形で応援をもらえると想像していなかったので驚きと嬉しさで歓喜でした。

そして、一番近くにいる種子島中学校生徒の皆さんから、「全国の医療従事者へ」と、大きなエールを頂きました。生徒たちが自ら企画したことを学校長より教えていただき、世間が新型コロナ対応で追われる中、生徒たちの生活も日々制限されることが多くなる中で、自分たちができることとして考えた企画だそうです。この話を聴き、子どもたちの力の偉大さに感動しました。

●まとめ

多くの助言をいただく中、自施設でできる方法は何かを常に考えながらの日々である。今後、おそらく来るでしょう新型コロナウイルス感染症患者対応、そして回復した患者さんがいつもの日常生活へ戻れることを地域社会と共に乗り越えたい。私自身の役割は、一番に院内感染を起こさない体制作りである。スタッフとの関係性を大事にし、今後の備えが充実できることを日々励む。

企業・団体のご寄付・御寄贈(順不同)

株式会社京セラ様
株式会社山沓様
公益社団法人鹿児島県茶業会議所様
株式会社伊藤園様
東ソー株式会社様
ロート製薬株式会社様
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様
ネスレ日本株式会社様
エクスペローラーズ鹿児島様

個人からのご寄付・御寄贈(順不同)

四元様
俵様



活動紹介

へいじろう編集委員より

地域医療連携室 坂口 健

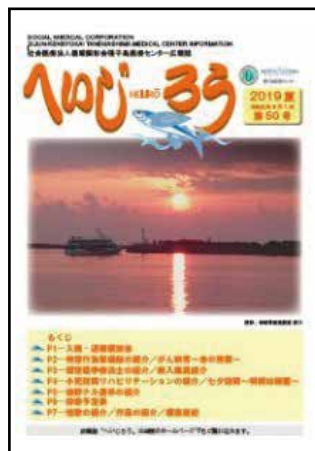
年報誌『飛魚』の小型版として、年に4回広報誌『へいじろう』を発刊しております。平成19年6月1日の創刊号から13年、現在までに53号を発刊しました。

院内講演会・院内部活紹介・新入職員紹介・各科診療予定・患者様から頂いた短歌・詩など、その時々様々な記事を掲載しています。最新号は「コロナウイルス感染症特集」でした。より地域に密着した医療機関を目指すこと、そして島民の皆様はもちろんのこと、島外在住の皆様にも当院をもっともっと知って頂くことを常に意識しながら、活きの良い「へいじろう」の如く、より新鮮な情報を皆様に発信できるように、これからも取り組んでいきます。

※「広報誌へいじろう」は、当院ホームページよりご覧いただけます。

【編集委員】

金森 夏翠(リハビリテーション室)
井元 彩奈(リハビリテーション室)
加世田 和博(地域医療連携室)
坂口 健(地域医療連携室)



第50号



第51号



第52号



第53号

活動紹介

種子島医療センターサーフィン部(Tanegashima medicalcenter Surfing Club:TSC)

リハビリテーション室 理学療法士 喜屋武 学

新型コロナウイルス感染症が全国で猛威を振るい、自粛期間が続いている中で、当院でも医師、看護師など、医療従事者が最前線で立ち向かっています。

私達TSCは種子島医療センター職員約30名で活動しており部員は医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、介護士等医療に関わる様々な職種で構成されています。

種子島は太平洋・東シナ海に面し、リーフ・ビーチと多彩な地形からなる様々なポイントがあり、ほぼ毎日サーフィンが可能な環境です。またローカルサーファー(地元出身のサーファー)の方々も温かく、混雑することがほとんど無いので、島ならではのゆったりとしたサーフィンライフが楽しめます。オリンピックの正式種目となったこともあり、TV・雑誌で取り上げられることも増えてきています。また種子島、種子島医療センター、サーフィンを題材とした映画(ライフオンザロングボード 2nd wave)の撮影が行われ、より一層盛り上がりを見せている所です。

私はリハビリテーション室に所属しており、仕事と両立しながら種子島の綺麗な海、良い波でサーフィンができる事に魅力を感じ入職しました。海に入れば、TSCメンバーやローカルサーファーとの関わりも多く、声を掛けていただき、島ならではの温かさを感じています。美しい朝日や夕日を見て、良い波に乗り、一緒に充実した時間を共有できることに喜びを感じています。

TSCメンバーは田上寛容理事長を筆頭に様々な職種の職員が在籍しているため、プライベートでの繋がりはもちろんですが、仕事をする上でも職種の垣根を越えた繋がりが出来ていると感じています。また、種子島出身の人だけではなく、日本各地から、仕事、サーフィンを目的に集まってきているメンバーもいるため、最初は離島での生活や仕事に不安を感じていましたが、すぐに馴染むことが出来ました。サーフィンだけではなく、海や自然が好きな方は、種子島での生活はとても充実したものになると思います。仕事、サーフィンを両立した生活を私達TSCと一緒に送ってみませんか？メンバー一同新しい仲間と出会いサーフィンができる事を楽しみにしています。また令和2年4月現在は自粛期間中で外出が出来ない日々が続いておりますが、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と種子島皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。



活動紹介

第29回 種子島医療センター杯 ジュニアバレーボール大会

3階西看護師 古石 綾女

当病院が、皆様になじみのある『田上病院』であった頃、そして新たに『種子島医療センター』と改名されてもなお、この種子島にある西之表市市民体育館で受け継がれてきた激闘と言っても過言ではない、ある大会が毎年繰り広げられています。

それは平成二年から始まり、今年令和二年までの約30年間という長い歴史を持っています。

その名も『田上杯ジュニアバレーボール大会』改め『種子島医療センター杯ジュニアバレーボール大会』!!!

出場者はなんと、我々の未来を担う頼もしい種子島・屋久島の小学生の子どもたち！子どもたちにとっては難儀な事に、台風の多い時期でもある、まだまだ蒸し暑い夏休み最後日に開催しております(汗)。それは子どもたちにとって貴重な貴重なサマーバケーションラストデイ!!!にも関わらず、負けん気のやる気に満ち溢れた表情で毎回参加してくれるのは、とてもうれしいですね。

やはりこの時期ですと、天候にも大きく左右される事が多く、朝もはよ～に起きて、時にはおおしけの大海原の中、トッピーに乗り込んで屋久島から出向いてくださる選手も大勢！たまには一泊して帰る事もあります、ありがたや～(涙)

そして、夏休み最後なので宿題の事も考えるとソワソワする子たちも多いでしょう。

たまに、子どもたちに「夏休みもう終わるけど宿題終わってる？」と尋ねるんですが、「ん～、あと作文だけ～」「まだ終わってない～、どうしよう～」「もう、明日の日記まで書いたし！」と、面白い返しもあり、我々を笑顔にさせてくれますね～。



昨年度は、種子島・屋久島の小学校からの参加がありました。大会は『レギュラー部門』と『チャレンジ部門』二つに分かれ、それぞれ優勝を目指し、白熱した戦いを繰り広げるのです。大きな学校から小さな学校、ぎりぎりの人数でありながらも一致団結して参加してくれるチームもあります。

まだまだ幼い顔のこどもたちながらに、心をひとつに懸命にボールを繋ぎ、相手を攻め込むプレーは鳥肌が立つほどに迫力があり、学校が終わってから疲れていても日々一生懸命練習してきたのだらうと思うと涙物です。バレーボールを始めた頃から比べると、グングンとわが子の【心・技・体】が成長する姿は保護者の方々も感極まるそうです。

さらに、何といても保護者の方々による応援団は熱闘甲子園の様な迫力です！！

体育館全体に広がる応援は島民の元気印とも言えるでしょう。

今年度で第三十回目と大きな節目となる開催を予定しておりましたが、悔しくも世界的に流行しております新型コロナウイルスの影響により、今年度の大会の開催の目途が組めない状況でございます。

ですが我々も医療従事者として、コロナに立ち向かい、元気な子どもたちがまた、バレーボールを楽しんでいる姿をいち早く見たい一心で日々乗り越えております。

子どもたちから学ぶことは本当にたくさんあります。

種子島のこどもたちが我々の元気の源になっているんだと実感させられる機会です。

はやく元気なこどもたちの笑顔をまたあの体育館で見たいな～。



種子島医療センター ゴルフ部紹介

手術室・中央材料室 田上 義生

当院ゴルフ部の活動状況としては、平成29年5月に第1回種子島医療センター杯ゴルフコンペを開催し、令和2年の4月までに3年間で8回開催致しました。

昨年度は、平成31年4月14日に、5組(20名)・令和1年12月15日に、5組(18名)で開催しました。参加者は、主に病院及び関連施設の職員です。

私事ではありますが、12月のコンペで4名中3名は、病院職員でしたが、1人は、介護施設の方で面識はありませんでしたが、いっしょにラウンドすると会話がはずみ、18ホール回ったころには、昔から知っている友人の様な気がしました。気の置けない仲間とのプライベートゴルフもいいですが、コンペは、新しい出会いがあり、それも良い所だと思います。今年は、新型コロナウイルスも終息し、また種子島医療センター杯ゴルフコンペが開催される事を楽しみにしています。

青空の下、大自然の中でボールを遠くまで飛ばす爽快感。若い職員のみなさん、ゴルフに参加してみませんか？



活動紹介

種子島医療センターテニス部

昨年、テニス部を立ち上げ練習は勿論のこと、色々なイベントにも参加してきました。練習は部員数が少ないため、月曜日のテニス連盟、水曜日のジョネスクラブ、金曜日の種子島スポーツクラブなどに参加して頑張っています。

初心者の方も経験者の方も大歓迎ですので、テニスで一緒に汗を流しませんか。

初心者の方は、金曜日の種子島スポーツクラブ、初心者以外の方は、月曜日または水曜日のクラブに参加されたら良いかと思えます。

【練習場所と時間】

場所：鴨女テニスコート（わかさ公園内）

時間：19:00～21:00

テニスをされたい方は、下記の連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】

部長：古元 康德（田上診療所 0997-27-0325）

副部長：向井 大輔（わらび苑 0997-22-2600）

副部長：田上 直生（種子島医療センター 0997-22-0960）

*2019年7月熊毛地区大会が行われ西之表市が優勝し9月の県民大会に出場しました。

*2020年2月第2回かもめ薬局名越杯(ダブルス)の大会が有り、種子島医療センターから3名出場し(向井・古元)ペアが準優勝でした。

*2020年2月よいら〜いきキッズスポーツイベントに参加しました。

姫野ナルさんがプロになって、初めてのイベントで沢山の方々が熱心に指導を受けられていました。

*2020年3月第34回春季ダンロップスリクソン大会でベテラン男子55歳ダブルスに(山本・古元)ペアで出場し準優勝でした。



活動紹介

3x3エクスプローラーズ鹿児島 そして、SKUNK

副院長 田上 純真

3人制プロバスケットボール、Explorers（エクスプローラーズ）鹿児島の昨シーズンの成績ですが、主力選手や外国人選手の移籍があり、レギュラーシーズンは厳しい戦いとなりました。それでも中園、入間川、戸島、川上をはじめとするプレーヤーで終盤に健闘、最終節までプレーオフ進出の望みを繋ぎましたが惜しくも敗退となりました。しかしながら、緻密な戦術とスピリットで、明らかにフィジカルの大きな相手によく立ち向かって行ってくれたと感じています。

さて今シーズンは新型コロナウイルス感染拡大の影響で、残念ながらPREMIER.EXE（参戦予定だったトップリグ）は開催中止となりました。しかし、九州エリアでのトーナメントや、全日本クラスの選手権、また5人制バスケット部としての活動を引き続き精力的に行って、地域の活性化やスポーツ振興に取り組んで参りますのでこれまでと変わらない応援のほどよろしくお願いいたします。



エクスプローラーズのスローガンは
Slow But Sure
といます。3x3のホットな戦いを、着実に芽吹かせていきます！

そして、じつは当院にはバスケ部があるのです。
チーム名を SKUNK (スカンク) といいます。
部員は 院内では
田上純真(シューティングガード)
福山龍巳(パワーフォワード)
宿利佳史(スモールフォワード)
上妻直人(ポイントガード)
濱口匠(センター)
の5名で、それに院外のメンバーを加えて総11名となっています。

練習は週に3回、火曜日と木曜日に19:00~21:00、日曜日に9:00~12:00、せいざん病院の体育館でおこなっています。楽しくわきあいあい、右へ左へドタバタとボールを追っかけ回るわたしたち。全員とっても気さくで、性別、経験ある無しにかかわらずどなたでもすぐにバスケが楽しめる、エンジョイバスケットサークルです！

最近階段ですぐ息切れするあなた、お仕事や人間関係でストレスフルなあなた、おへそ周りが少しぷよぷよしてきたかもというあなた、引っ込み思案でなかなか友だちができづらいあなた、一緒に楽しくバスケや飲み会をやりませんか？

わたしたちはいつでもあなたを歓迎いたします。さわやかに汗をかいて、おいしいお酒を飲んで、みんなで楽しく活動いたしましょう。

ファーストコンタクトは、二階病棟医事の福山さんに声をかけてください！
すぐに歓迎の宴をご用意させていただきます。



活動紹介

遠泳大会

国上小学校 美坂 貴一

遠泳大会の練習は、先生や保護者の方に手伝いをしてもらいました。ぼくたちは、平泳ぎの練習をたくさんしました。つかれて止まっていると、「手を動かして。」と注意されます。だからぼくは、教えてもらったことを守ろうと思いました。そして、これまでの練習の成果を発揮しようと思いました。遠泳大会本番です。ぼくは、リハビリの先生にいっしょに泳いでもらいました。ぼくは平泳ぎです。泳いでいると中で、お母さんやおばあちゃんが「がんばれ。」とおうえんしてくれました。だから疲れて大変でも最後まで泳ぐぞと思いました。でもぼくはいちばん最後にゴールしました。みんなが、たくさんほめてくれました。ちょっとはずかしかったです。とてもつかれました。でも、最後まで泳ぐことができたので、満足な気持ちでいっぱいでした。来年は、先頭を泳げるようになって、最初にゴールしたいです。

「併泳」

リハビリテーション室 理学療法士 大坪 正拓

2019年7月21日「われは海の子 国上の子 古田の子 遠泳大会」が開催されました。浦田漁港から浦田海水浴場まで約1Kmの距離を泳ぐという大会です。この大会に当院にて外来リハビリテーションを受けられている児童と併泳させて頂く機会を得たのでここに紹介させていただきます。

「明日は9:30に浦田だよ」前日の理学療法の最中に彼は言いました。普段と違い緊張している様子が伝わってきます。学校で練習を重ね初めて泳ぐ海、担当療法士としても私自身も不安と緊張が入り混じっていました。当日、曇天のなか遠泳大会が開催されました。集合場所で彼を見つけたときの硬い表情は忘れられません。開会式や準備運動が終わり、巻貝で作られた笛の合図とともに参加者たちが順に海へ入水してきます。私達も海へ入り遠泳大会の始まりです。泳ぎ始める彼はとても真剣な表情でした。コースを半分ほど進んだとき、ご家族からの応援もあり泳ぐペースが速くなっていきました。海水浴場内に入ると同時に、海的环境が変化しました。潮の流れが入り海水が冷たくなったのです。そのなかでも彼は手と脚を最大限に動かし前へ進んで行きました。昨年と違った下肢機能や、彼の頑張っている姿にとっても感動したことを覚えています。海水浴場内に入ってから彼は泳ぐことを続け完泳することができました。完泳後の彼は疲れ切っていましたが満足気な表情でした。その姿を見て今後も発達を促せるような厳しくも楽しい理学療法を提供したいと感じました。



活動紹介

がんサロン「よろーて」のご紹介



看護副主任 岩坪 夕子


種子島医療センターでは、平成28年よりがん患者さんやご家族が、病気の悩み・体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として、がんサロン種子島を開催してきました。これまで延べ50の方が参加され、30分程度のミニ講演の後、お茶を飲みながらおしゃべり会を行いました。今年、院内でサロンの名前を公募し、がんサロン「よろーて」になりました。今年も患者さんやご家族と一緒に過ごす時間を大切に、下記の内容で開催予定です。


令和2年度 がんサロン よろーて 年間予定表


日時：毎月第3金曜日
14:00～16:00
場所：4階小会議室


春 夏


6月19日(金) 化学療法について  


7月17日(金) アピアランス
～治療に伴う外見ケア～ 


8月21日(金) 治療と仕事の両立のお話 


9月18日(金) 感染予防 



10月17日(土) ミニ音楽会 

11月20日(金) 治療中の食事の話 

12月18日(金) 年賀状を書こう 

1月15日(金) シャボンラッピング 

2月19日(金) がんとりハビリテーション 

3月19日(金) 歯の衛生について  

冬 秋

種子島医療センター 緩和ケア委員会

転倒転落防止ワーキンググループ

3階東病棟・副看護師長 矢野 順子

委員長/高尾尊身

委員/矢野順子、戸川英子、羽生泰子、丸野嘉行、古石綾女、延時彩、大中沙織、
福島佑、原田寛司、田中真奈美

転倒転落防止ワーキンググループでは当院における転倒転落の低減を図るための取り組みを行っています。今後ともスタッフの皆様のご協力をお願いします。

<年間目標>

レベル3b以上の重症事例を限りなくゼロに減らす

<活動内容>

- 1、当院の転倒転落事案の分析、対策を検討する
- 2、患者家族への指導
- 3、職員に対する防止策の指導、啓発活動

<令和元年度の取り組み>

- ・医療安全研修会参加への声掛け
- ・転倒転落データの把握
- ・症例検討会
- ・院内ラウンド
- ・経過表の離床センサー確認へ設定入力を周知させる
- ・離床センサーOFFカードの作成

活動紹介

認知症ケアワーキンググループ

3階西病棟 看護師 迫田かおり

認知症ケアワーキンググループは、薬剤師・リハビリ・医事課・看護師の多職種が情報を共有し、月1回の症例検討会をはじめとしたカンファレンスを行っています。さらに入院時より認知症高齢者の日常生活自立度判定基準に沿って看護計画の立案や家族への説明を実施し、定期的な評価、計画や算定を見直し、身体拘束を減らす取り組みを行っています。

今年度からは認知症ケアワーキンググループにて「せん妄ハイリスク患者ケア加算」も追加されます。これは入院後3日以内に確認を行う必要があり、入院中1回(100点)のみの算定になります。せん妄とは軽度の意識障害に認知・注意力・気分障害を伴った状態で急性発症、可逆性を特徴とした疾患です。

対処方法として

- ① 挨拶と自己紹介を行い目の前の人間が敵でないことを示す(笑顔で)
- ② いきなり接近せずに声をかけて、こちらに注意が向いてから接近する
- ③ 視線を同じ高さにする(上から見下ろさない)
- ④ 優しくねぎらいの言葉をかける(「大変でしたね」など)
- ⑤ 今現在の苦痛をできる範囲で緩和する
- ⑥ 理由を聞き、相手が冷静に判断できる情報を提供する
- ⑦ 無理に拘束をしない
- ⑧ 周りが慌てない
- ⑨ 本人の話をよく聞く

などがあげられます。入院早期にせん妄のリスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して非薬物療法を中心とした、せん妄対策を行い新たな評価を行っていきます。

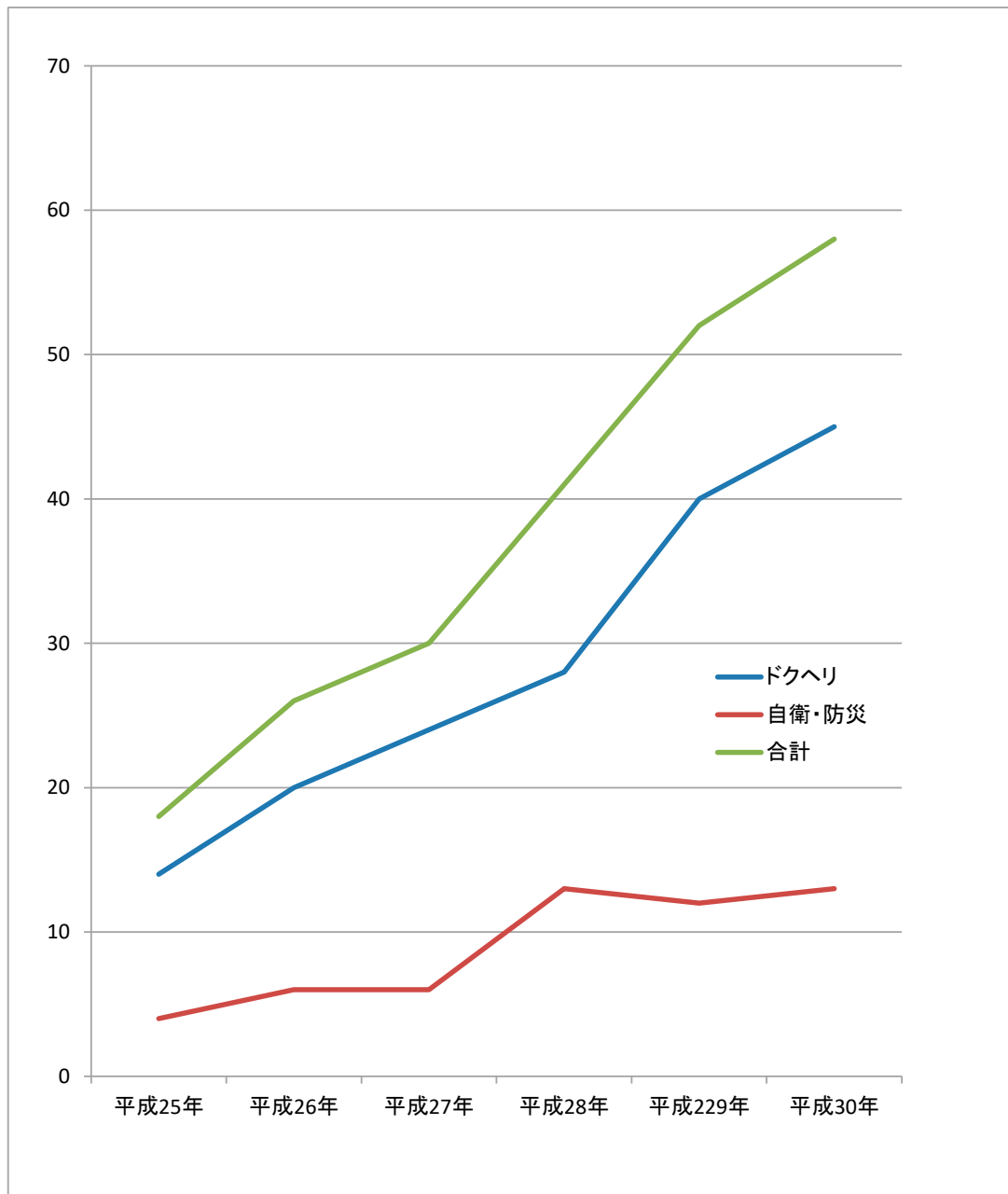
また、昨年度、せいざん病院ののこにこ笑劇団員と当職員によるたねがしま弁で行った認知症の方への接し方の劇は覚えておられるでしょうか？認知症に対する考え方も変わったのではないのでしょうか？



活動紹介

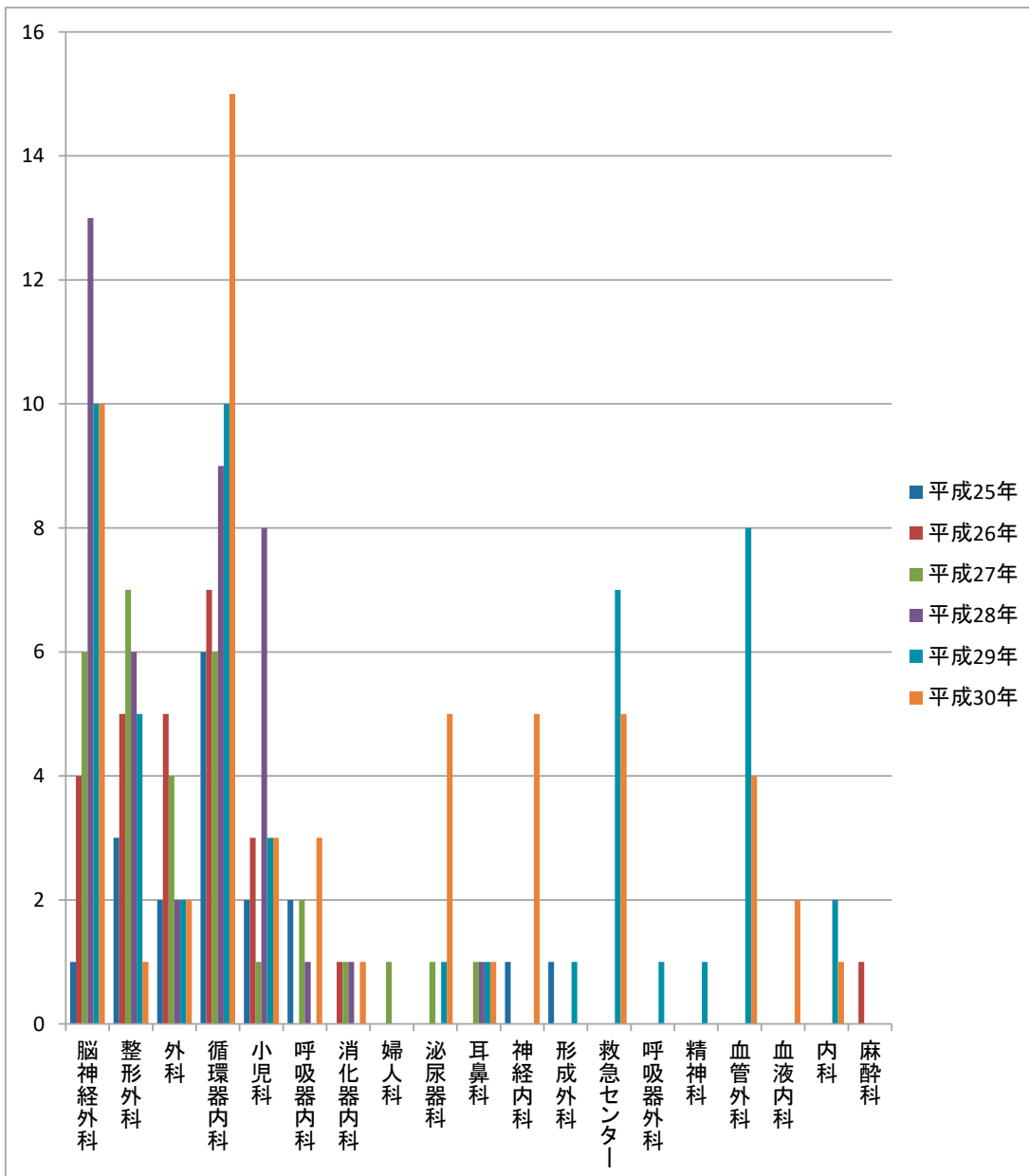
ドクターヘリ

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成229年	平成30年
ドクヘリ	14	20	24	28	40	45
自衛・防災	4	6	6	13	12	13
合計	18	26	30	41	52	58



紹介先科別

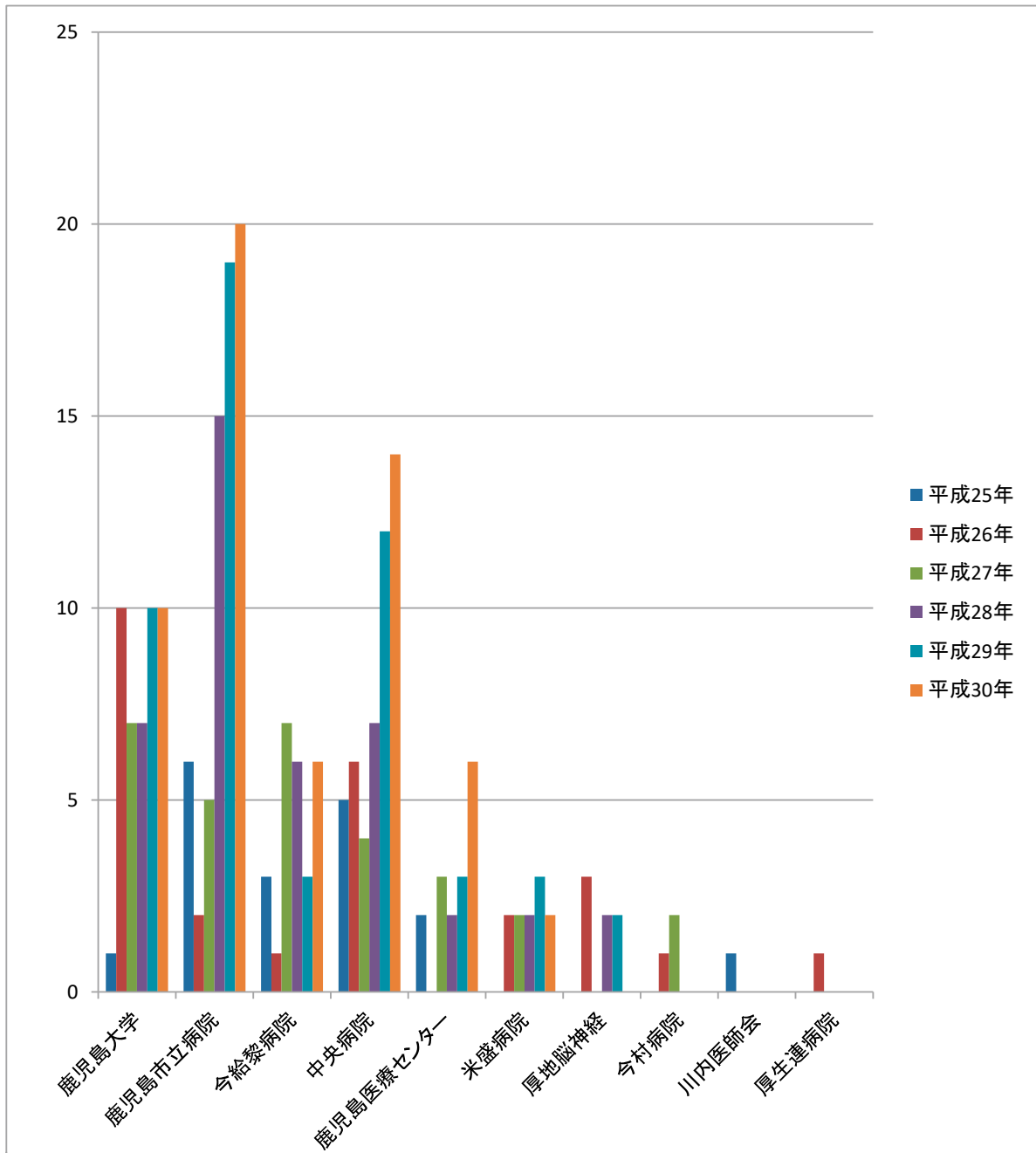
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
脳神経外科	1	4	6	13	10	10
整形外科	3	5	7	6	5	1
外科	2	5	4	2	2	2
循環器内科	6	7	6	9	10	15
小児科	2	3	1	8	3	3
呼吸器内科	2	0	2	1	0	3
消化器内科	0	1	1	1	0	1
婦人科	0	0	1	0	0	0
泌尿器科	0	0	1	0	1	5
耳鼻科	0	0	1	1	1	1
神経内科	1	0	0	0	0	5
形成外科	1	0	0	0	1	0
救急センター	0	0	0	0	7	5
呼吸器外科	0	0	0	0	1	0
精神科	0	0	0	0	1	0
血管外科	0	0	0	0	8	4
血液内科	0	0	0	0	0	2
内科	0	0	0	0	2	1
麻酔科	0	1	0	0	0	0
	18	26	30	41	52	58



活動紹介

紹介病院別

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
鹿児島大学	1	10	7	7	10	10
鹿児島市立病院	6	2	5	15	19	20
今給黎病院	3	1	7	6	3	6
中央病院	5	6	4	7	12	14
鹿児島医療センター	2	0	3	2	3	6
米盛病院	0	2	2	2	3	2
厚地脳神経	0	3	0	2	2	0
今村病院	0	1	2	0	0	0
川内医師会	1	0	0	0	0	0
厚生連病院	0	1	0	0	0	0
	18	26	30	41	52	58



活動紹介

ふれあい看護体験

看護局長 山口 智代子

毎年、「看護の日」制定記念事業の一つとして、実際の看護体験をしていただき、患者さんとのふれあいを通して看護する事や人の命について理解と関心を深めていただく機会としております。令和元年のふれあい看護体験は、高校生3名の参加がありました。今回の体験を通して将来の看護師像を思い描くことが出来たのではないかと思います。沢山の経験をして疲れたと思いますが、将来に役立てていただければと思います。

(令和元年7月27日実施)

(タイムスケジュール)

- 9:00 集合
病院紹介・看護職の紹介
記念撮影
- 10:00 看護職体験
- 12:00 職員食堂で昼食
看護職体験
- 15:00 感想・意見交換
- 16:00 終了

(職業体験スタート)



看護師さんに教えてもらって配膳♡



ベッド周囲の整理整頓もてきぱきと！



体位交換は難しい(*_*)



沢山食べて元気になって下さいね。



車椅子体験



看護体験！一日頑張りました。



リハビリ室でちょっと緊張



種子島医療センターの紹介

一日看護師さんの仕事を見学するだけだったが、とても疲れた。やはり、看護師には、思うよりもたくさんの体力が必要だと感じた。今日初めて体験して色々な事を思い、看護師の仕事について初めて知る事が多かった。今日の体験を次に活かして、知識と共に経験も重ねていきたい。貴重な体験を有難うございました。

今回二度目の体験という事もあり、前回の体験も踏まえて看護という職がより自分になりたいと思えるようになりました。患者さんの手足を洗いました。袋に作った泡で手足を袋にくるめそのまま洗うのは楽しく、前回の体験で自分も洗ってもらう事を経験しましたが、大変気持ち良く患者さんにもそうしてもらえるように一生懸命洗いました。このような体験を通して私はこれから大学へ看護師になるべく進学しますが、より一層勉強に励み、経験に富み優れた看護師になれるよう努力しようと思いました。

移動介助、清潔介助を修了したあと、患者さんから必ず言われる一言がありました。それは「ありがとう」です。言われたときは、すごく嬉しく、さらにやりがいを感じました。また、看護師さんが清潔介助などをしたあと患者さんに「ありがとうね」と声かけをしているのを見ました。すごくかっこよく、改めて素敵だなと感じました。私が笑顔を見せると、ニコッと笑ってくださる患者さんもいて、その患者さんの笑顔が私のパワーになりました。進路に悩んでいた私でしたが、少しずつ道が見えてきたような気がします。私は誰かの役に立つ、助けてあげられる、寄り添ってあげられるような人になります。

活動紹介

リハビリテーション職業体験&セミナー

リハビリテーション室 副室長 濱添 信人

毎年、リハビリテーション室では、島内の高校生向けに「職業体験&セミナー」を開催しています。リハビリテーション職業(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)をセミナーや体験に参加することで専門職を知ってもらい、将来の進路選択の一つになってもらいたいと考え、取り組んでいます。セミナーでは、リハビリテーションの概要、各専門職の特徴、進路方法についてスライドを用いて説明しました。体験では、車椅子体験、障害者・高齢者体験、義肢装具体験、片手片足での更衣体験、自助具体験、とろみのある水分摂取体験、構音訓練体験など様々な体験をしてもらいました。また、体験以外で、セラピストの実際の臨床見学をしてもらい、患者様の訓練や練習の場面も見てもらいました。リハビリテーション職業について知ってもらうために、今後も引き続き開催していきます。

日時： 第1回 令和元年11月16日(土)
第2回 令和元年12月21日(土)

参加者 第1回 種子島中央高校生 1名(3年生)
第2回 種子島高校生 4名(3年生)

《当日のスケジュール》

- 9:00 集合、オリエンテーション、リハビリテーションセミナー
- 10:00 理学療法体験、作業療法体験、言語聴覚療法体験、障害者・高齢者体験
- 12:00 病院食堂での昼食
- 13:00 セラピスト見学
- 15:00 レクリエーション活動参加
- 15:30 感想、意見交換
- 16:00 修了



活動紹介

ボランティア受け入れ報告

看護局長 山口 智代子

種子島医療センターでは、地域に根ざした病院として、地域住民などによるボランティアを積極的に受け入れ、専門性を生かしたボランティア活動を行っていただいています。

ボランティアの方々の笑顔とふれあいにより、患者様の心の安らぎがもたらされ、大きな支えになっています。ご協力いただきまして、有難うございます。

クリスマスキャロル(西之表基督協会)



クリスマスイブに西之表基督協会の皆様が、ピアノ演奏に合わせて素敵な讃美歌を届けて下さいました。

毎年、クリスマスキャロルにお越しいただきました池田公栄先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

おゆうぎ会(院内保育所)



院内保育所の園児達が、おゆうぎと元気な歌を披露してくれました。

おゆうぎ会の後は、疲れたのか保護者の皆さんにたくさん甘えていました。毎年、お遊戯会を楽しみにしています。有難うございます。



七夕事業所訪問(めいろうこども園)



めいろうこども園の園児達から「たなばたさま」の歌のプレゼント♪“ささのは さ～らさ～”と振り付きで元気に歌ってくれました。「お仕事がんばってください!」「早く元気になってね!」と元気・パワーをいただきました。

活動紹介

令和元年 リハビリテーション室現地施設見学会を開催して

リハビリテーション室 部長 早川 亜津子

<はじめに>

当院の療法士の7割は島外出身者です。離島のリハビリテーション医療に従事したいと考える療法士や、療法士の卵に当院のことを知ってもらうために、現地施設見学会を開催しています。

また、種子島の病院へ大切な子どもさんを就職させるご家族様に、少しでも安心して当院を選んでいただけるようにと、ご家族様も参加可能な回も企画しました。

<対象者>

令和2年度、理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科の養成校卒業予定者または、有資格者。

<開催日と参加者数>

	開催日	時間	参加者
第1回	7月21日	9時30分～14時30分	1名
第2回	10月26日	9時30分～14時30分	6名

<内容>

パワーポイントを使用し概要紹介
 実際にリハビリテーション室にて療法士の治療場面を見学
 ランチ交流会
 院内施設見学
 病院周辺案内

<結果>

上記、施設見学会では7名の療法士の卵たちの参加がありました。そのうち、3名の参加者が採用面接を受験するに至りました。

また、上記見学会以外で個別での施設見学も受け入れを行っており、7名の見学者を受け入れました。そのうち、3名が採用面接を受験するに至りました。

その結果、理学療法士3名、作業療法士4名、言語聴覚士2名、計9名の療法士が入職しました。

<今後の展望>

種子島の病院を知りたい、実際に見てみたいと思っても、移動が不安である方が多くなるのではないかと予想されます。そこで、インターネットなどを利用した見学体験なども計画をしていきたいと考えます。

今後も、島外出身者はもちろんですが、島内出身者の確保も必須で、種子島で育った若者たちにリハビリテーション職に興味をもって貰える活動を更に広めていきたいと考えます。

活動紹介

熊毛圏域地域リハビリテーション広域支援センター

リハビリテーション室 部長 早川 亜津子

今年度、約5年ぶりに熊毛圏域の地域リハビリテーション広域支援センター【脳血管疾患等分野・整形疾患等分野】として、種子島・屋久島・口永良部島の島民が住みなれた“島”で安心して生き生きと生活ができるように、活動・支援を行っていきたいと考えます。

まずは、社会医療法人義順顕彰会について簡単に紹介をさせていただきます。

社会医療法人義順顕彰会は、種子島医療センター、介護老人保健施設わらび苑、訪問看護ステーション野の花を有し、療法士は、理学療法士41名・作業療法士19名・言語聴覚士5名の65名が在籍をしています。療法士の7割は、北は北海道、南は沖縄県という全国各地から種子島に集まった若い療法士たちです。

そんな島外出身の若い療法士たちにとっても、島での暮らしを知るためにも地域リハビリテーション広域支援センターとしての活動は有用であると考えます。

令和元年度は、様々な関係各所と協力・協働をしながら別表のような活動・研修会を実施しました。私たちの地域リハビリテーション活動の対象は、大きな枠組みでは“必要とする全島民”とし、実践をしています。

また、リハビリテーション職対象の研修会「促通反復療法実技演習会」では、種子島のみならず屋久島の療法士たちも参加し2日間の実技演習を開催致しました。熊毛圏域の療法士の質的向上や療法士間の連携構築となり、次年度も継続開催ができるように尽力をしていきたいと考えます。

市民公開講座「作業療法(OT)って何だろう？ ～作業を知れば元気になれる～」では、未来の作業療法士候補の子どもさんにも解りやすく作業療法を知ってもらい、夏休みの宿題としても活用してもらえればと考え、一緒にソックスエイドやリーチャー等の自助具作成を行いました。子どもさんや親御さんからも好評をいただきました。

私たちは、これまでの地域リハビリテーション活動での経験を活かし、これからも地域の要請に応じた積極的な派遣を行い、これまで以上に他施設の療法士と協力・協業をしながら、自院では「患者」から「生活者」としての視点を持った療法士の育成をし、島民を笑顔に元気にできる活動を継続して参ります。

令和元年活動実績

個別ケア会議(西之表市・中種町・南種子町)
介護教室派遣事業 講師
健康アイランド種子島 種子島医療セン体操実演
要介護者への支援相談
種子島地区自立支援協議会の構成委員
小児慢性特定疾病を持つ保護者の集いへの講師派遣
障害児等療育支援事業巡回相談
養護学校巡回相談
乳幼児健診
幼児ケース検討会議

令和元年研修会

促通反復療法実技演習会(2日間)

講師:促通反復療法研究所 川平先端リハラボ 所長川平和美先生

対象者:熊毛圏域のリハビリテーション専門職

市民公開講座 「作業療法(OT)って何だろう? ~作業を知れば元気になれる~」

(ワークショップ) 自助具を作ろう

講師:当院作業療法士

対象者:島民



活動紹介

病院見学・実習・体験

令和元年度

4/8～18	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
4/22～5/9	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
5/27～6/6	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
6/10～20	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
6/24～7/4	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
7/8～18	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
7/9～11	鹿児島県立種子島中央高等学校	1名	(看護・リハビリ職場体験)
7/27	鹿児島県立種子島高等学校・種子島中央高等学校	3名	(ふれあい看護体験)
7/29～8/2	鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻	3名	(病院実習)
8/26～30	鹿児島大学医学部	3名	(病院実習)
9/2～5	鹿児島大学医学部	2名	(病院実習)
9/2～12	帝京大学医療技術学部看護学科	18名	(施設見学)
9/15	医療・介護就活ツアー	2名	(施設見学)
10/16～18	種子島高等学校	5名	(就業体験)
11/9	医療・介護就活ツアー	10名	(施設見学)
1/30	東京大学 学生	3名	(施設見学)

活動紹介

報道・広報関係

総合 2019年(令和元年)11月12日 火曜日

首都圏・20～40代女性対象 医療・介護就活ツアー

西之表市は10日までの3日間、首都圏の20～40代女性を対象にした初の医療・介護職就活ツアーを実施した。写真。恒常的な高職場の人材不足解消に加え、高齢者や子どもの見守り支援を担ってもらうことを目的に、ターゲットを絞り込んだ。

看護師就職サイトで募集したところ、定員10人に115人の応募があった。参加者は

西之表市が初実施

種子島医療センターや介護施設の百合砂苑などを巡り、担当者から施設の説明を受けたほか、先輩移住者との意見交換やマリンスポーツ体験、定住促進住宅の見学を通し、離島の暮らしに理解を深めた。

群馬県みどり市の看護師、渡邊葵さん(30)は「離島医療の現状を知りたかった」。栃木県佐野市の寺内百恵さん(45)は「自分の第2の看護師人生を考えなかった」とツアー

参加を希望。「人柄が気さくで、移住の垣根が低いように感じた」と市の印象について口をそろえた。

西之表市は2021年度までツアーを続け、年々程度に移住につなげたい考え。種子島医療センターの山口智代子看護局長(58)は「離島医療に興味を持ってもらえるような説明を心掛けた。独自に人材確保の取り組みはしているが、こうした行政のサポートは本当にありがたい」と話し

(深野修司)



南日本新聞 令和元年11月12日

2020年(令和2年)7月8日 水曜日 社会

■種子島でPCR可能に

西之表市の種子島医療センター(高尾尊身院長)は7日、新型コロナウイルスのPCR検査キットを導入したと明らかにした。9日から検査に対応する。これまでPCR検査は、検体を島外へ搬送するため結果が出るまでに最大3日ほどかかっていたが、即日検査が可能になった。導入した検査キットは唾液を検体に用いる。1時間当たり3人分の検査ができる。所要時間は従来約6時間に比べ、最短20分ほどと大幅に短縮される。

南日本新聞 令和2年7月8日

